

### テーマ 平成時代を紡いだ作品と作家たち

【概要】平成に足跡を残した作家とその作品を取りあげて毎回異なる視点で「平成文学」を総括するとともに、日本文学の潮流を読み解きます。

■時間：14時～16時（120分）

■会場：大宮西部図書館 視聴覚ホール

■定員：100人

■申込み期間：4月1日(月)～23日(火) 必着

■費用：3,000円（受講料・税込）

No.	開設日	演題	主な内容	講師名
1	5/21(火)	ばなな世代が時代をつくった -「女流」じゃなくて、 「ばなな」だった-	吉本ばなな(旧筆名：よしもとばなな)『デッドエンドの思い出』を取りあげるほか、角田光代、小川洋子についても解説します。	愛知大学・愛知学院大学 講師 今井 隆太 氏
2	5/28(火)	世界文学としての日本文学	日本文学の国際化と作品の中にもみる国際性をテーマに、辻原登、津島佑子、須賀敦子、リービ英雄、池澤夏樹を取り上げます。	
3	6/4(火)	時代の底を見つめる	恩田陸『蜜蜂と遠雷』を取りあげるほか、東野圭吾、湊かなえ、黒川博行、原奈についても解説します。	
4	6/11(火)	振り返るほどの時代があった -よむ世代と、 よまない世代の断絶を考える-	村上春樹『1Q84』、カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』等を取り上げます。	淑徳大学 講師 編集者 竹中 朗 氏
5	6/18(火)	日常と非日常、その間 <sup>あわい</sup>	宮下奈都『羊と鋼の森』を取りあげるほか、川上弘美、柴崎友香、梨木香歩についても解説します。	
6	6/25(火)	時代と歩む時代小説 -司馬遼太郎以後、 山本周五郎の孫たち-	和田竜『村上海賊の娘』を取りあげるほか、佐伯泰英、葉室麟についても解説します。	

### テーマ 近世石造物－石造物から知る歴史とさいたま市－

【概要】人々の信仰や生活を知る手掛かりとなる様々な石造物について取り上げ、石造物を通し近世という時代とさいたま市域について解説します。

■時間：13時30分～15時30分（120分）

■会場：市立博物館 講座室

■定員：50人

■申込み期間：7月26日(金)～8月22日(木)必着

■費用：3,000円（受講料・税込）

No.	開設日	演題	主な内容	講師名
1	10/10(木)	近世石造物の種類と形	近世の石造物にはどのような種類や形状のものがあるか。さいたま市内の石造物も例に迫ります。	さいたま市役所 職員
2	10/17(木)	高遠石工と石造物 ～石に刻まれた祈り～	石材を加工、細工する職人・石工についてスポットを当てます。	一般社団法人高遠石工研究センター 事務局長 熊谷 友幸 氏
3	10/24(木)	関東における石の流通	舟運などによる石の流通について関東地方を中心に概観します。	国土館大学 文学部 講師 岩下 祥子 氏
4	10/31(木)	近世の墓石と墓誌	墓石と被葬者の事績などを記して墓中に納めたものである墓誌についてひもときます。	立正大学 文学部 教授 池上 悟 氏
5	11/7(木)	神社の石造物	さいたま市内を例に神社に見られる石造物について、その特徴や概要について解説します。	東アジア歴史文化研究所 主席研究員 下村 克彦 氏
6	11/14(木)	石造馬頭観音と道標	馬頭観音とは何か、さいたま市内に建立されているものを例に見つめなおします。	さいたま市史編さん審議会 委員 青木 義脩 氏